



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思います。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思います。
よろしくお願いいたします。

★資料名

夢

★今回の道徳の授業のねらい

より高い目標に向かって、くじけないで努力しようとする態度を育てる。

★お話のあらすじや内容について

父親とテレビのプロ野球中継を見て、小学生の「ぼく」は「プロ野球選手になる」という夢をいだきます。その夢の実現のため野球チームに入り練習を重ねます。中学校、高校、大学とさまざまな困難や壁を乗り越え、「ぼく」は野球の力とともに精神的にも成長していきます。活躍が新聞に取り上げられたこともあり、「ぼく」は球団から声がかかるのを待ちますが、スカウトされることはありませんでした。夢をあきらめず、その後も入団テストを受け続けましたが、ついに合格することはありませんでした。

その後、野球とは関係のない仕事に就きますが、野球を通して身につけた心はその仕事の中でも確実に生きていますと実感します。「夢があったからこそ、今のぼくがいて、これからのぼくがある」という言葉で教材は終わります。目標に向かって努力する過程で、人が成長していくことのすばらしさについて考えることができる教材です。

★児童のふり返り

- ◎追いかけていた夢をきっぱりと諦めることはこれまでの自分を裏切っている気がして、簡単にはできるものではないと思った。人生の転換点は、何か大きな選択をした時なのかなと思った。
- ◎失敗や挫折をしたとしてもそれまでに続けて頑張ってきた経験が大事だと思った。たとえ挫折したとしても、その挫折した経験を生かして次のことを頑張るようにしたい。
- ◎これからつまずくことがあると思うが、それをポジティブに捉えるかネガティブに捉えるかで人生が大きく変わると思う。その失敗が良い経験だったと思うようにして努力を続けていきたい。

★家庭で話し合ってもらいたいこと

今回は、「挫折」というテーマをもって授業を行いました。最後には、担任自身の挫折経験を子どもたちに話しました。人間誰しも挫折したり、壁にぶつかったりすることがあると思います。6年生の子どもたちはこれからでしょう。それに立ち向かっていくことができる人間は様々な努力、経験を積んだ者だと思います。保護者の皆様のそんな経験を赤裸々に子どもたちに語ることもあるといいなと思っています。子どもたちがよりよい人生を歩むことができるよう、見守って行きたいものですね。